

超音波探傷試験レベル2, 3実技試験の概要 (変更点: 赤字)

1. 試験項目

(1)実技試験

①垂直探傷試験 (板材; 図1参照) 【15分】

厚さ25mm程度の鋼板をJIS G 0801に従って垂直探傷する。

②斜角探傷試験 (T継手溶接部; 図2参照) 【40分】

RB-41でエコー高さ区分線図を作成し, 厚さ25mm程度のT継手溶接部をJIS Z 3060に従って斜角探傷する。(試験会場で作成する区分線の探傷子位置を図3に示す)

③データ整理と答案作成 【30分】

探傷データを整理し, 実技試験答案用紙 (マークシート) に記入する。

(2)レベル1へのNDT指示書の作成 【30分】

与えられた試験体の探傷に必要なNDT手順書に従ってNDT指示書を作成する。

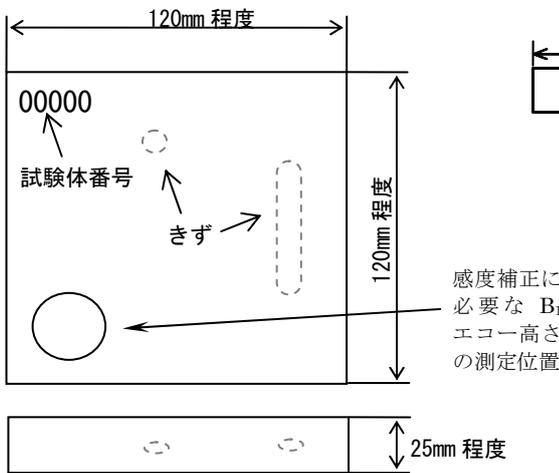


図1 垂直試験体の例

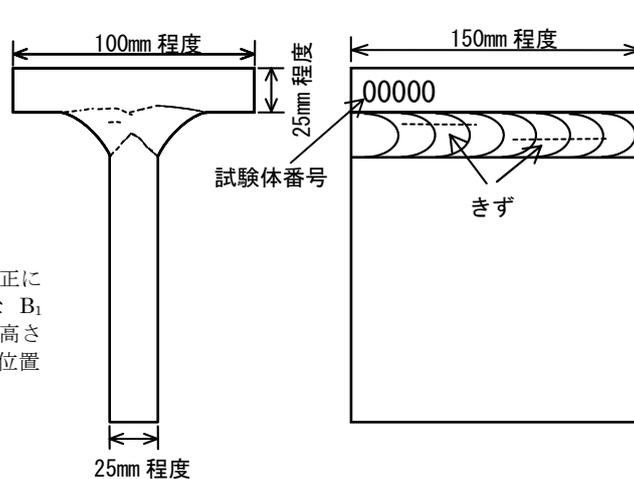
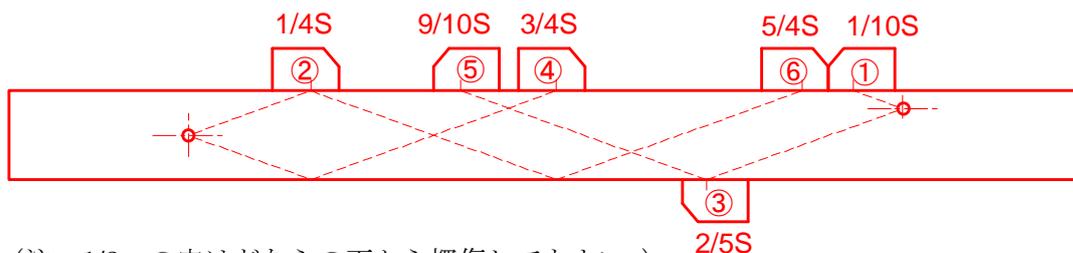


図2 斜角試験体の例



(注: 1/2 t の穴はどちらの面から探傷してもよい。)

図3 二次試験で使用するRB-41試験片の標準穴と探触子位置

2. 注意事項

- (1) 実技試験は平成22年春期よりJSNDIで準備するデジタル超音波探傷器か予め申請時登録した持込みのデジタル探傷器で行う。
- (2) 試験の前に探傷器の操作確認の時間がある。垂直探触子及びSTB-A1を使用して探傷器の操作方法を確認する。その前・後に, 試験員の指示に従って探傷器の初期化を行う。ただし, 探傷器持込受験の場合, 操作確認の時間はない。
- (3) 実技試験は, 試験会場で与えられるNDT指示書に従って探傷すること。
- (4) 探傷器持込み受験の場合, 会場にてJSNDIが用意した探触子と探傷ケーブルを使用すること。
- (5) エコー高さ区分線の作成には, デジタル探傷器の持つ作成機能を用いること。H線は, RB-41 No.2 φ3(1/10 S) : 80~100%として作成し, 測定範囲200mmで探傷する。

以上